

与党、安定多数確保

自民	民主	公明	共産	社民	保守新	無所属の会	自由連合	諸派	無所属
237	177	34	9	6	4	1	1	0	11

民主、比例第一党に躍進

政権選択を最大の争点にした第四十三回衆院選は、九日投票された。自民党は解散時の二百四十七議席を減らし過半数(二百四十一議席)を割り込んだが、前回二〇〇〇年衆院選の二百三十三議席を上回り、二百三十七議席となった。公明、保守新を加えた与党三党で二百七十五議席となり、国会運営を安定して進められる絶対安定多数(二百六十九議席)も確保。小泉純一郎首相は続投、自公保連立政権は継続される。投票率は共同通信推計で59.73%、前回は3ポイント程度下回った。



衆院での単独過半数割れが確実となり、厳しい表情を見せる小泉首相と安倍幹事長ら。九日午後十一時十一分、東京・永田町の自民党本部

民主党は比例代表で七十二議席を獲得し、比例第一党。小選挙区と合わせ計百七十七議席と躍進した。自民党に対峙(たいじ)する過去最大の野党となり、本格的な二大政党時代に入る。公明党は三十四議席を確保、解散時を上回った。共産党は九議席を獲得したが解散時の二十議席から大きく後退、社民党も解散時の十八議席から激減し過去最低の六議席に落ち込んだ。保守新党も九議席から四議席に低落、二階俊博幹事長は「敗北」を宣言した。

内訳は小選挙区で自民党百六十八、民主党百五、公明党九、社民党一、保守新党四、無所属の会一、自由連合一、無所属十一。比例代表は自民六十九、公明二十五、共産九、社民五。

自民党の山崎拓副総裁(福岡2区)と保守新党の熊谷弘代表(静岡7区)は落選。社民党の土井たか子党首(兵庫7区)は小選挙区で敗北したが比例代表で復活した。自民党の村岡兼造元官房長官(秋田3区)も落選し、世代交代を印象づけた。議員辞職した田中真紀子前外相(新潟5区)、加藤紘一元自民党幹事長(山形3区)は返り咲いた。名古屋、福岡両市の小選挙区で自民党は全敗。民主党は都市部を中心に支持を集めた。

小泉首相は「与党で過半数を取れば、責任問題は出てこない」と連立政権維持を強調した。民主党は小泉改革路線に批判が噴出したとして対決姿勢を強める方針だ。